

農業共済新聞 千葉版 投稿

掲載号	5 月 2 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 生産技術部 水田作研究室
	職名及び氏名	主席研究員 西川康之
題名	倒伏を軽減し、品質・食味を向上させる「コシヒカリ」の晩植栽培法	
備考	【図説明】「コシヒカリ」の晩植栽培における穂肥窒素施用量と倒伏及び品質	

【本文】

大規模な稲作経営では、千葉県の主力品種であり、販売に有利な「コシヒカリ」で作期の拡大を図る場合が多く、田植え作業を5月中～下旬に行う晩植栽培が増えています。「コシヒカリ」の晩植栽培は、4月中旬～5月上旬の田植え（以下、慣行栽培）に比べ、稈が伸びて倒伏しやすく、穂数不足や倒伏の発生による減収、玄米品質及び食味の低下がみられます。このように、晩植栽培の生育は慣行栽培と大きく異なるため、注意が必要です。

品質及び食味を重視した「コシヒカリ」の晩植栽培の方法は次のとおりです。①基肥窒素施用量を、慣行栽培に比べて10a当たり1～2kg減量します。②穂数不足や倒伏を防ぐため、田植機の栽植密度は坪当たり50～55株に設定します。③穂肥は、慣行栽培で窒素成分3kgを施用している場合、土が肥えている粘質土や壤質土では50%減量の1.5kgとし、また、砂質土では30%減量の2.0kgを目安として、幼穂長が1cmとなる出穂前18日に施用します。穂肥の施用適期は、平年並みの気象条件の場合、5月25日植えの「コシヒカリ」では千葉市で7月22日ごろ、香取市で7月25日ごろと予想されま。適期の施用を心がけてください。

以上、述べました栽培上のポイントに十分留意し、良質で食味の良い「コシヒカリ」を生産してください。

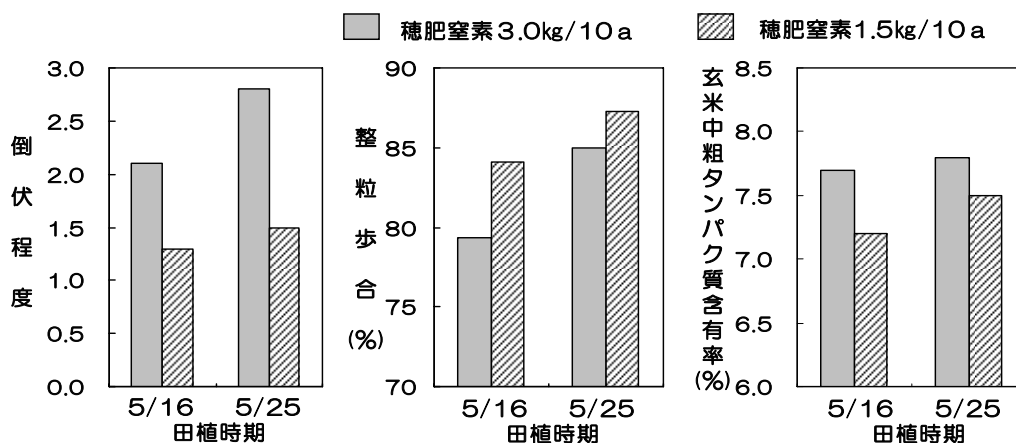


図 「コシヒカリ」の晩植栽培における穂肥窒素施用量と倒伏及び品質

注) 千葉市、壤土、基肥窒素施用量1.5kg/10a、栽植密度50株/坪。倒伏程度は、0:無～5:甚。整粒歩合が高いと玄米品質は良好。玄米中粗タンパク質含有率が低いと食味は良好。